

第二〇回村落社会研究会総会報告

第二〇回（昭和四七年度）総会は、一〇月二一日午後四時三〇分

千葉県鴨川市望洋荘に於て開催。議題にはいる前に、村研大会二〇回を記念して小池基之会員の挨拶、本大会開催にご協力いただいた千葉県議会議会史編纂委員長相川久雄先生の来賓祝辞がありました。総会座長は内藤莞爾会員。

一、運営委員会報告

(イ) 合同委員会の開催、第一回（昭四六・一〇・一四）於大会会場、第二回（昭四六・一一・八）於東京教育大、第三回（昭四七・五・三〇）於同上、第四回（昭四七・九・二）於同上。

(ロ) 「研究通信」の発行、第七九号、第八三号の五号を発行。

(ハ) 村研二〇周年記念事業「研究通信」創刊号第五〇号を電子複製・製本、頒価二、〇〇〇円（非会員一、二〇〇〇円）。当該会計は本会計とは別にする。なお、本事業実施にあたっては、福島直、中野卓両会員に多大なご協力をいただいた。

一、会計報告

(イ) 昭和四七年度会計報告（別項参照）

(ロ) 会計年度の件、会計年度を大会終了の翌日から翌年九月三日までとする。

(ハ) 会費納入方法の件、従来の郵便振替に加え、各年度の事務局が適宜設けた銀行口座へも納入することができる。また事務局宛の現金書留でもよいものとする。

(ニ) 前納会費の件、前納された会費については、のちに会費額が変更（値上げ）された場合も、その差額は徴収しないものとする。

一、その他事務報告

昭和四七年九月三〇日現在の会員数二九一名（内住所不明五名）。本年度の新入会員紹介

一、編集委員会報告

(イ) 年報第八集の刊行について 年報第八集の編集については、寄稿された原稿の内容について編集委員会において十分に検討を加え、充実した年報の編集をおこなうというこれまでの方針に従って実施すべく準備をすすめていたが、寄稿の〆切日のおくれたことと、論文の数が少なかつたこともあって、必ずしも当初の計画にそいえなかつた。頁数も例年より四、五〇頁少なくなつてしまつた。年報の内容のより一層の充実をはかるためには、会員の各位より沢山の原稿を寄せられることが何よりも望まれるところであると同時に、委員会において検討する時間的余裕を確保するために、寄稿される方は是非とも原稿〆切日を守つてもらいたい。

(ロ) 村落社会調査研究叢書第三輯の編集について これまで研究叢書を二輯まで刊行したのであるが、福武委員より「さらに四輯まで刊行できる資金のメドがついたので、ひきつづき準備をすすめてもらいたい」という趣意のご好意により、第三輯の応募原稿の中から、黒崎八洲次良会員の原稿を採択することにした。刊行は来年三月の予定。題目「近代農業村落の成立および展開と農家の経営——北海道虻田群留寿村大西家文書を中心に——」。

なお、第十九回大会において報告された菅野・田原・網谷会員の山形県庄内の一村落の共同研究は、当初年報第八集に掲載を予定し、原稿執筆してもらったが、研究内容の全体に及ぶ記述となると枚数が多くなるため、研究叢書にまとめてもらうよう依頼した結果快諾をえた。したがって、本書第四輯には、右の三会員の論文が予定されている。五輯以降についてはまだ採択予定の原稿はないので、今後、会員の各位の中で研究成果をまとめるご計画のあり次第・題目・要旨を添えて委員会まで申し出てもらいたい。

（イ）年報第九集に原稿応募をされる方は、本研究大会終了時までに、題目・要旨を添えて申込んでもらいたい。委員会では大会終了後に大会報告者に対する原稿の依頼検討とあわせて協議し、通知する。ただし、応募原稿について年報掲載の可否は、提出された原稿の内容を検討した上で決定するというこれまで手続きに従う。

一、昭和四八・四九年度委員選出

現在の委員の任期満了にともなう委員の選出に関して議事を提出した際に、小池会員より、村研発足当時には「宿題委員」制度があって、次年度大会の共通課題などについて問題点を深め、整理し、共同討論に備えるという活動をしていたが、この制度をもう一度復活したらよいと思う、という提案があり了承された。

委員の選出方法については、従来の手続きに従って選衡委員

七名を投票によって選出し、委員を決める方法をとった。

○選衡委員 小池基之、福武直、中野卓、柿崎京一、川越淳二
余田博通、内藤莞爾

つぎに右の選衡委員が集って選衡委員会を開催（二〇月一日午後八時三〇分、大会会場宿舎において）し、左記の各委員を選出した。

○運営委員 布施秩治、島田隆、安孫子麟、田原晋和、安原茂、蓮見音彦、服部治則、高山隆三、吉沢四郎、川本彰、内山政照、中井信彦、高橋明善、牧野由朗、村長利根朗、余田博通、後藤和夫、松本通晴、内藤莞爾、原宏、以上二〇名。

○宿題委員 岩本由輝、安孫子麟、高山隆三、似田具香門、高橋明善、蓮見音彦、後藤和夫、以上七名。

○編集委員 島崎稔、中野卓、園田恭一、小池基之、福武直、柿崎京一、以上六名。

一、昭和四八年度事務局

次期事務局を服部治則（山梨大学）、川本彰（明治学院大学）にお願いすることとし、服部、川本両会員よりお引受けいただく旨の挨拶があった。

一、昭和四八年度大会当番校

次期大会当番校として愛知大学（川越淳二会員ほか）にお願いすることになり、川越会員からお引受けいただく旨の挨拶があった。

一、その他

（前事務局民秋ならびに編集委員柿崎記）